

Title	中国語の副詞「就(jiu)」の語的特徴について：生成文法の観点から
Author(s)	張, 雨辰
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2019, 2018, p. 41-49
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72707
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

中国語の副詞「就 (jiu)」の統語的特徴について
—生成文法の観点から—

張 雨辰

1. はじめに

中国語には「就 (jiu)」という副詞があり、この副詞は焦点句との関係を持つが、英語、日本語においては、「就 (jiu)」に対応する語彙が存在しない。さらに、「就 (jiu)」は文中で生起する位置により、意味と機能に差異が生ずると考えられる。具体的には、(1) と (2) の対比のように、双方が真逆の意味解釈を表す事例が挙げられる¹。

ˊ约翰就去派对了

(1) ˊYuehan jiu qu paidui-le

John go party ASP

John went to the party (There might be other persons who went to the party, but they are not ‘endorsed’ by the speaker)

约翰就去派对了

(2) Yuehan ˊjiu qu paidui-le

John go party ASP

John ONLY went to THE PARTY.

(1) では、焦点句は「John」であり、副詞「就」より前に現れ、文の強勢が焦点句に置かれる。(1) では、「就」を挿入することにより、「John 以外にもパーティーに行く人がいるかもしれないが、ここでは話し手によって問題にされていない」という含意が読み取ることができる。本論文では、このような意味を「反総記 (anti-exhaustive)」の意味²と呼ぶ。

¹ 本論文では「ˊ」で強勢を、「太字」で焦点を表すことにする。

² 本論文での「反総記」の意味は、久野暲 (1973) における「総記 (exhaustive) のガ」に由来する。久野 (1973) は、主語につくガ格には「総記」のという用法があることを指摘した。総記とは主語に「X、そして X のみが」という含意がある用法である。

(i) におけるガ格は「総記のガ」であり、(i) は「学生であるのは太郎だけだ」という含意が含まれている。例えば、学生である人は太郎以外にもいる場合では、話し手が (i) を発話する場合、偽になる。中国語にも同じ現象が見られる。(ii) では「太郎だけが学生です」という含意が存在する。しかし、(ii) に jiu を挿入すると、学生である人は太郎以外にもいると話し手が知っていながら jiu を伴った (ii) を発話しても、偽にならない。この現象により、本論文では、jiu は「反総記」の意味を持っていると指摘する。

(i) 太郎が学生です。 (ii) 太郎 (就) 是 学生
太郎 jiu COP 学生

(1) で「反総記」の解釈が見られる一方、(2) では、焦点句が「the party」であり、文の強勢が「就」に置かれる。ここでは、「就」は英語の *only* と類似した意味と機能を持っており、(2) は「就」を挿入することにより、「John はパーティーだけに行った（他のところには行かなかった）」という意味を表す。

Tsai(2017) では、(1) における焦点句よりも後ろに現れる「就」を *jiu1* と、(2) における焦点句よりも前に現れる「就」を *jiu2* と分類している。本稿も Tsai(2017) の分類に従い、分析を進める。

- (3) a. *jiu1*: `焦点 *jiu1*
 b. *jiu2*: *jiu2* 焦点

ここでは、*jiu1* の現れる文では、強勢が焦点に置かれる。一方で、*jiu2* の現れる文では、強勢が「就」に置かれる、この場合では焦点も強く発音する必要がある点に注意されたい。

本論文では、「就」の統語的特徴について検討し、特に *jiu1* の統語的特徴を生成文法の枠組みから検討する。

2. 先行研究

従来の中国語語学では「就」については形式意味論 (Tsai(2017), Liu(2016) などに参照)、語用論 (Hole(2004), Biq(1988) など) の枠組みによる研究は進められているが、生成文法のアプローチからの研究は管見の限り見当たらない。

Biq(1988) では、「就」の用法を「parametric usage」、「limiting usage」、「emphatic usage」、「temporal usage」という四つに分類している。この四つの分類のうち、「parametric usage」と「limiting usage」が本論文での *jiu1* と *jiu2* に対応している。

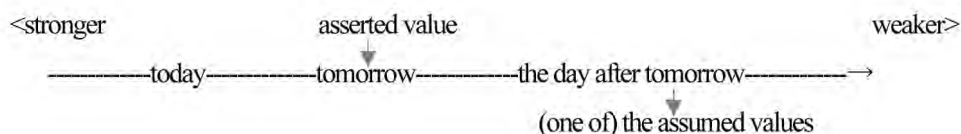
Biq(1988) によると、「parametric usage」(*jiu1*) の「就」にマークされる焦点は、(4) のように、文の表す出来事の発動条件になる。

张三`明天就走

- (4) Zhangsan `mingtian jiu zou
 Zhangsan tomorrow leave
 ‘Zhangsan will leave (as soon as) tomorrow.’ (Biq(1988:3b))

(4) では、焦点句 ‘tomorrow’ は、‘Zhangsan leaves’ という出来事の発動すること (actuation) のパラメーターとなる。簡潔に述べると、(4) は ‘Zhangsan leaves at x, x is tomorrow’ という意味を表している。(4) では「就」を挿入することにより、‘Zhangsan will leave AS SOON AS tomorrow’ という ‘as soon as’ の尺度の含意 (scalar implicature) が読み取ることができるといふ点に留意されたい。Biq(1988) では、この尺度の含意について、それが副詞「就」に含まれるものではなく、コンテキストから得られるものであると述べている。例えば、(4) はコンテキストの会話から、(5) のようなスケール (scale) が得られる。

(5)



(5) では、‘Zhangsan leaves at x’という命題について、想定された値は tomorrow より弱く (weak)、例えば the day after tomorrow が想定 (assumed) されている。実際に挿入された値は tomorrow であるため、‘as soon as’ という含意が読み取れるようになる。

Biq(1988) の jiu1 についての分析は、非常に興味深いものであり、jiu1 が変項を含む predicate((4) であれば、jiu1 が‘Zhangsan leaves at x’ という predicate が作られ、x が変項である) を作る機能があるという観察は正しいと考えられる。しかし、「就」によってもたらず尺度の含意について、それがコンテキストから来ているという主張には、問題がある可能性があるのだが、本論文では立ち入らないこととする。

3. 「就」の統語的特徴

本節で jiu1 と jiu2 の共通的な統語構造として、jiu1 と jiu2 は両方ともモーダルなどを含む節的な要素と構成素を成していることを示す。

まず、jiu1 について参照されたい。(4) (以下 (6) として再掲) のような jiu1 の現れる文では、焦点句 ‘tomorrow’ が「就」の直前に現れる。

(6) Zhangsan `mingtian jiu zou

Zhangsan tomorrow leave

‘Zhangsan will leave (as soon as) tomorrow.’

(4) 再掲)

このような焦点句と「就」の位置関係は、「就」が焦点化詞であり、‘tomorrow’ と結びつき、構成素を成している可能性があると思定することが自然であると考えられるが、実際には、そうではない。jiu1はその前にある焦点句ではなく、その後ろにある動詞句を含む要素と構成素を成している。

(7) の前置テストは [焦点+就] が構成素を成していないことを示している³⁴。

³ ここではあえて (6) をテストに使わないのは、(6) では ‘tomorrow’ を前置させたら jiu1 の意味が ‘tomorrow’ にかかっているのか、主語にかかっているのかがわかりにくいからである。

⁴ (7b) が非文で、(7c) が文法的な文になるということから、「焦点+jiu」が構成素をなしていないことを完全に言い切れない。つまり、構成素テストの性質上、(7b) が言えないのは「焦点+jiu」が構成素をなしていないためではなく、他にも原因がある可能性がある。したがって、「焦点+jiu」が構成素である可能性は完全には否定できないことになる。

(I asked the teacher who can go back home first?)

老师说 小红就可以走了

- (7) a. laoshi shuo [**xiaohong** jiu keyi zuo le]
the teacher say XiaoHong jiu may go ASP
The teacher said XiaoHong may go back home first.

*`小红 就老师说可以走了

- b. *`**xiaohong** jiu laoshi shuo keyi zuo le
XiaoHong jiu teacher say may go ASP
XiaoHong, the teacher said may go back home first.

`小红老师说就可以走了

- c. `**xiaohong** laoshi shuo jiu keyi zuo le
XiaoHong teacher say jiu may go ASP
XiaoHong, the teacher said may go back home first.

(7a) では埋め込み文の主語「XiaoHong」は焦点であり、「就」が埋め込み文のモーダルを含む動詞句の前に現れる。もし、[XiaoHong+就] が構成素を成しているのならば、[XiaoHong+就] を文頭に前置させることができるはずである。(7b) は [XiaoHong+就] を前置させた文であり、非文となるので、予測に反する。一方、(7c) は埋め込み文主語「XiaoHong」だけを文頭に前置させた文であり、非文とはならない。(7b) と (7c) の対比より、jiu1 がその前にある焦点句ではなく、その後ろにあるモーダルなどを含む動詞句と構成素を成していることは明らかである。

次に、jiu2 について検討する。(8) では、焦点が 'French' であり、「就」よりも後ろに現れるので、(8a) における「就」は jiu2 である。

老赵可能会 [就学法语]

- (8) a. laozhao keneng hui [**jiu** xue **fayu**]
Mr. Zhang may will jiu learn French
Mr. Zhang may will (only) learn French

[就学法语]老赵可能会

- b. [**jiu** xue **fayu**] laozhao keneng hui
jiu learn French Mr. Zhang may will
(only) learn French, Mr. Zhang may will do

(8b) は (8a) に [就+動詞句] を文頭へ前置させた文である。(8b) が文法的であることから jiu2 はその後ろにある動詞句と構成素を成していることが分かる^{5,6}。

4. jiu1 と焦点句の関係

本節では jiu1 と焦点句の関係について議論する。

4.1 jiu1 の反総記の意味

3節で既に見た通り、jiu1 はそれより後ろにあるモーダルなどを含む動詞句と構成素を成しており、それより前にある焦点句と構成素を成していない。つまり、jiu1 の現れる文は (9) のような構造を持っている。

(9) [焦点 [jiu1 [ModP [VP]]]]

(9) の構造では、焦点句が jiu1 の c 統御領域の外にあるにもかかわらず、jiu1 の「反総記」の意味が焦点まで影響を及ぼしている。例えば、(10) では ((7a) 再掲) 焦点句 ‘XiaoHong’ は jiu1 よりも前に現れ、jiu1 がモーダルを含む動詞句と構成素を成しており、焦点句が jiu1 の c 統御領域の外にある。つまり、焦点句 ‘XiaoHong’ は jiu1 の領域外にあるため、jiu1 は焦点句に影響を与えることができないという予測が成り立つはずであるが、これは事実と反する。

老师说小红就可以走了

- (10) a. laoshi shuo [**Xiaohong** [jiu keyi zuo le]]
 teacher say XiaoHong jiu may go ASP
 The teacher said XiaoHong may go home first.

(10) では jiu1 を挿入することによって、「先生が帰っていいと言っている人」は、「XiaoHong」以外に

⁵ 中国語では、モーダルの認可がなければ、動詞句の前置または削除ができないので、(13b) では未来 ‘future’ を表す *hui* ‘will’ というモーダルによって動詞句の前置が認可される。

⁶ jiu2 によってマークされる焦点句は、VP、あるいは VP の一部が可能である。例えば、(i) では焦点句は [KAN-WAN-LE DI-YI ZHANG], [KAN-WAN-LE di-yi zhang], [kan-wan-le DI-YI ZHANG] という三つの可能性がある。この点において jiu2 は英語の *only* に類似しているが、jiu2 は *only* ではない。(ii) では jiu2 が *zhi* ‘only’ と同時に現れる。

- (i) Zhangsan jiu2 kan-wan-le di-yi zhang
 Zhangsan read-finish-ASP 1st chapter
 ‘Zhangsan only finished reading chapter one’
- (ii) Zhangsan jiu2 zhi kan-wan-le di-yi zhang
 Zhangsan only read-finish-ASP 1st chapter

もいるかもしれないという含意が読み取れるが、この情報は話し手によって裏付けられていない。この「XiaoHong」以外にも predicate によって定義される性質に満たすもの (人) がある」という意味は、いわゆる本論文で述べる「反総記」の意味である。このような jiu1 の意味範囲はその c 統御領域外のものに影響を及ぼす現象について、そのメカニズムを解明する必要がある。

5.1 jiu1 は焦点句を引き上げることができない

本節では、(11) での事例から得られる予測に反し、jiu1 は焦点句を引きかざることができないと主張する。

(11) では、焦点句は ‘apple’ であり、jiu1 よりも前に現れている。(11a) では焦点句が jiu1 の直前に、(11b) では焦点句が文頭にある。いずれの文においても、jiu1 の「反総記」の意味が焦点句まで届いている。このように、jiu1 は常に焦点句よりも前に現れることから、「就」が焦点化詞であり、焦点句を上を引き上げる機能があると考えるのが自然である。

约翰 苹果就吃了

- (11) a. Yuehan `pingguo_i jiu chi-le t_i
 John apple eat-ASP
 John eat the apples (he might also eat other things)

苹果约翰就吃了

- b. `pingguo_i Yuehan jiu chi-le t_i
 apple John eat-ASP
 John eat the apples (he might also eat other things)

しかし、(12) を見てみよう。(12a) は元の語順の文であり、場所副詞 ‘zai gongyuan’ (in the park) は様態副詞 ‘mali-de’ (quickly) より外 (前) に現れる。(12b) は [場所副詞+様態副詞] を文頭に前置させ、様態副詞 ‘mali-de’ (quickly) が焦点句に当たる文である。もし、jiu1 が焦点を引き上げることができるのなら、予測としては jiu1 が様態副詞 ‘mali-de’ (quickly) を文頭へ引き上げた文 (12c) も文法的な文になるはずであるが、実際は非文となる。(12c) では「就」があっても無くても、そもそも非文法的である。その非文法性的原因は中国語では様態副詞は場所副詞より外に出てこれないからである。そして、(12b) では「就」があっても無くても、その文法性に影響がない。以上のことから、jiu1 の挿入の有無は文の文法性に影響がないと考えられる。

(12) a. 约翰在公园麻利地修好了车

- yuehen zai gongyuan mali de xiuhao le che
 John in park quickly DE fix ASP car
 John quickly fixed the car in the park.

b. 在公园麻利地约翰(就)修好了车

zai gongyuan `mali de yuehen jiu xiuhao le che
in park quickly DE John jiu fix ASPcar
John quickly fixed the car in the park. (not slowly, not clumsy)

c. *麻利地在公园约翰 (就) 修好了车

`mali de zai gongyuan yuehen (jiu) xiuhao le che
quickly DE in park John jiu fix ASP car
John quickly fixed the car in the park.

5.3 jiu1 と焦点句の間に見られる局所性

既に 5.1 節で議論した通り、jiu1 はそれより前にも現れ、その c 統御領域の外にある焦点句に「反総記」の意味を及ぼす現象が見られる。しかし、このような現象は、焦点句が jiu1 より前に現れればよいというのではなく、jiu1 の意味が及ぼす範囲と焦点句の間に距離の制限が見られる。次の (13) と (14) を参照されたい。

`张三让李四[PRO 就吃了饭]

(13) `Zhangsan rang Lisi [PRO jiu1 chi-le fan]
Zhangsan let Lisi jiu1 eat-asp food
'ZHANGSAN (is (one of) the person(s) who) let Lisi to have a meal.'

#张三知道[李四就吃了饭]

(14) #Zhangsan zidao [Lisi jiu chi-le fan]
Zhangsan know Lisi eat-ASP meal
Intended meaning: 'ZHANGSAN (is (one of) the person(s) who) knows that Lisi ate a meal'

(13) と (14) では主節動詞はそれぞれ rang 'let' と zhidao 'know' であり、「就」はそれぞれの補文節の動詞句の前についており、文の焦点は両方とも主文主語の Zhangsan である。(13) と (14) では、主節動詞だけが異なるが、jiu1 と焦点句の間の解釈が異なる。

(13) では jiu1 が補文節にありながら、その「反総記」の意味が主節主語の Zhangsan までに届いている。つまり、(13) は 'ZHANGSAN (is (one of) the person(s) who) let Lisi to have a meal.' という意味を表している。言い換えれば、Zhangsan 以外にも Lisi にご飯を食べさせた人がいるかもしれないが、この情報は話し手によって裏付けられていないという含意が読み取れる。

一方、(14) では jiu1 と焦点句の位置関係が一見すると (13) と同じであるが、(14) は、'ZHANGSAN

(is (one of) the person(s) who) knows that Lisi ate a meal’ という意味を表すことができない。言い換えれば、(14) には「Zhangsan 以外にも Lisi がご飯を食べたことを知っている人がいるかもしれない」という含意が含まれてはいない。つまり、(14) では (13) と違い、*jiu1* によってもたらず「反総記」の意味が焦点句 ‘Zhangsan’ までに届いていないことが分かる。

(13) と (14) の違いは、主節の動詞がとる補文節のタイプの違いによって、生み出されたものだと考えられる。(13) と (14) の主節動詞のとる補文節のタイプの違いは次のテストでわかる。

(15) a. 张三让王医生检查了李医生的病人

Zhangsan rang Wang yishen jiancha le Li yisheng de bingren
 Zhangsan let Wang-doctor check-ASP Li-doctor-GEN patient
 ‘Zhangsan let Doctor Wang checked Doctor Li’s patients’

b. 张三让李医生的病人被王医生检查了

Zhangsan rang Li yisheng de bingren bei Wang yisheng jiancha le
 Zhangsan let Li-doctor-GEN patient PASS Wang-doctor check-ASP
 ‘Zhangsan let Doctor Li’s patient to be checked by Doctor Wang’

(16) a. 张三知道王医生检查了李医生的病人

Zhangsan zhidao Wang yisheng jiancha le Li yisheng de bingren
 Zhangsan know Wang-doctor check-ASP Li-doctor-GEN patient
 ‘Zhangsan know that Doctor Wang checked Doctor Li’s patient’

b. 张三知道李医生的病人被王医生检查了

Zhangsan zhidao Li yisheng de bingren bei Wang yisheng jiancha le
 Zhangsan know Li-doctor-GEN patient PASS Wang-doctor check ASP
 ‘Zhangsan knows that Doctor Li’s patient was checked by Doctor Wang’

(15a) と (16a) の主節動詞はそれぞれ *rang* ‘let’ と *zhidao* ‘know’ であり、両方の動詞とも ‘Wang yishen jiancha le Li yisheng de bingren’ (Doctor Wang checked Doctor Li’s patient) を補文節にとる。そして、(15b) と (16b) はその補文節に受動化をかけた文である。(15b) では命題の意味が元の文と変わっている。元の文 (15a) は、「Zhangsan が Doctor Wang に指示し、Doctor Li の患者を診断させた」という意味を表している。一方、(15b) では、命題の意味がわかっており、「Zhangsan が Doctor Li の患者指示し、Doctor Wang に見てもらふことにした。」という意味を表す。それに対して、(16a, b) はこのような命題の意味の違いが見られない。両方とも、「Doctor Wang が Doctor Li の患者を診たということは Zhangsan が知っている。」という意味を表す。(15) と (16) の違いは、動詞のとる補文節のタイプによると考えられる。(15) の主節動

詞 rang ‘let’ はコントロール動詞であり、(17) の項構造を持っていると考えられる。一方、(16) の主節動詞 zhidao ‘know’は CP を補文節にとる動詞であり、(18) の項構造を持っている。

(17) [Suj rang Object [s PRO]]
 let

(18) [Suj zhidao [s]]
 know

jiu1 と焦点の間の局所性は節のタイプによって違いが見られる。jiu1 の反総記の意味にとって、zhidao ‘know’のとる補文節は一種の障壁になっていることは明白である。なお、この障壁の仕組みは何であるかについて、今後の課題としたい。

5. まとめ

本論文では、中国語の副詞「就」の統語的特徴について生成文法の枠組みから検討した。jiu1 と jiu2 が共通して持つ特性は、両方ともそれより後ろにあるモーダルなどを含む動詞句と構成素を成していることである。さらに、本稿では jiu1 は焦点句を引き上げることができないことと、jiu1 の「反総記」の意味はその c 統御領域外の焦点句に届くことができることと、jiu1 と焦点句に影響を及ぼす範囲があるという三つの特徴を示した。

参考文献

- C.-Y. Edwin Tsai (2017) ‘Preverbal Number Phrases in Mandarin and the Scalar Reasoning of *jiu*’, *Proceeding of the 34th West Coast Conference on Formal Linguistics* 555-561
- Hole P. Daniel (2004) *Focus and Background Marking in Mandarin Chinese -System and theory behind *cái*, *jiù*, *dōu* and *yě**. RoutledgeCurzon.
- 久野璋 (1973) 『日本文法研究』大修館書店
- Ming-Ming Liu (2016) *Varieties of alternatives* Ph.D. Dissertation Rutgers University
- Tzong-Hong Jonah Lin (2011) Finiteness of Clauses and Raising of Arguments in Mandarin Chinese, *Syntax* 14: 48-73
- Yung-O. Biq (1988). ‘From focus in proposition to focus in speech situation: *cái* and *jiu* in Mandarin Chinese’. *Journal of Chinese Linguistics* 16 (1), 72–108.